

☆ 国内外規制の今後の方向性とは？ 企業に求められる安全管理のあり方とは？

セミナーNo.407115

☆ 培養細胞を用いた試験法や計算化学的手法など、毒性評価の最新技術動向！



PFAS 国内外規制と 毒性影響・評価技術の最新動向

●日 時: 2024年7月31日(水) 10:00~17:00 ●聴講料: 1名につき 60,500円(消費税込、資料付)
●会 場: Zoomを使用したLive配信セミナーです。 [1社2名以上同時申込の場合のみ1名につき55,000円(税込)]
勤務先やご自宅のパソコンでご視聴ください。 [大学、公的機関、医療機関の方には割引制度(アカデミック価格)があります。]

1. PFASの国内外規制動向

【10:00-12:00】

沖津技術士事務所 代表 博士(薬学) 沖津 修 氏

【講座趣旨】本セミナーでは、最近の有機フッ素化合物(PFAS)の規制の概要と企業の対応策についてポイントをしばって説明します。はじめにPFASの化学的性質と規制との関係を簡潔に説明します。ここでは**公開情報からPFASの有害性についても整理**します。次に、国内外の規制動向のポイントを解説します。国連や条約(ストックホルム条約やロッテルダム条約)の歴史的経緯と主要国での規制動向を俯瞰し、グローバルな大きな動きを捉えます。ここには大きく3つの流れがあることが分かります。さらに、日本国内での規制の方向性を理解し、PFASの含有廃棄物の処理、環境、輸出入に関する規制や代替品を含めた事業者の対応策について考えます。

1. PFASの性質と規制概要

- PFASの危険有害性(特に、健康有害性と環境有害性)
- PFAS規制の3つの動き

2. PFAS規制動向のポイント

- 2.1 国連での経緯(WSSD、ICCM、SAICM等)
- 2.2 スtockホルム条約(POPs条約)とロッテルダム条約(PIC条約)
- 2.3 海外での規制(欧州、米国、その他)
- 2.4 日本での規制 2.5 水質基準等

3. 企業に求められる対応策

- 3.1 PFAS(及び含有物)に係る製造/取扱い/輸出入について
- 3.2 PFAS(及び含有物)に係る廃棄/処理について
- 3.3 企業活動への影響と代替技術

4. まとめ:化学品のサステナビリティ 【質疑応答】

2. PFASの健康影響・メカニズムと その毒性評価技術

【12:45-14:45】北里大学 獣医学部 獣医学科 毒性学研究室
講師 博士(獣医学) 武田 一貴 氏

【講座趣旨】PFAS類は環境残留性・生体蓄積性の高さに加え種々の毒性影響を人体に発揮する事が示唆されている。現在のところ代表的な長鎖PFASであるPFOA・PFOSについて発癌性・生殖機能への影響・免疫毒性・脂質代謝異常が報告されている。また、代替PFASとして知られている短鎖PFASやエーテルPFASについても同

様の毒性影響を持つ可能性が示唆されている。これらPFASの毒性評価には、主として蓄菌類を用いた動物実験による生物学的影響の評価が一般的である。さらに、培養細胞を利用した曝露試験や、計算化学的手法による影響予測も進んでいる。これらの方法により、PFASのリスクを科学的に評価し、人体への影響を正確に評価するための方策が模索されている。

●PFASの毒性影響の概説

- 発癌性 ・生殖発生毒性 ・免疫毒性 ・脂質代謝異常
- 化学物質の毒性試験、PFASの研究を例に
- 化学物質感受性の動物種差 ●動物実験から人への外挿
- 毒性影響の予測シミュレーション 【質疑応答】

3. 食品接触材料へのPFAS規制動向と 求められる安全管理

【15:00-17:00】

(一財)化学研究評価機構 食品接触材料安全センター
情報調査・広報室長 石動 正和 氏

【講座趣旨】PFASは非常に数多くの構造類似体、誘導体が合成され、用途も広い中、一部の物質に発がん性が確認されている。食品接触材料に対しては、金属製品、紙製品のコーティング剤(撥油剤、撥水剤)としての用途がよく知られている。欧州では、4月24日欧州議会会で可決された包装及び包装廃棄物規則(PPWR)において、食品接触材料として事実上全面禁止が打ち出された。米国では、市場がなくなった食品接触物質は認可を削除できるとされる連邦規則集の条文を根拠に、事実上全面禁止が打ち出された。今回の講演では、欧米の規制内容を解説し、業界として留意すべきポイントを紹介する。

- 1. はじめに
- 2. 食品接触材料におけるPFASの用途
- 3. スtockホルム条約(POPs)による規制
- 4. 欧州の規制動向

- 4.1 欧州化学品庁(ECHA)のREACHに拠る制限案
- 4.2 包装及び包装廃棄物規則(PPWR)の規制内容

5. 米国の規制動向

- 5.1 EPAのTSCAに拠る環境規制の広がり
- 5.2 FDAの食品衛生リスク評価 5.3 FDAの連邦規則集に拠る規制

6. 日本の規制動向

7. その他の国の規制動向

- 8. 業界として留意すべきポイント 【質疑応答】

●申込方法

- 1. 申込書が届き次第、請求書・聴講券・会場案内図をお送りいたします。
- 2. お申し込み後はキャンセルできません。
受講料は返金いたしませんので、ご都合の悪い場合は代理の方がご出席ください。

セミナー申込書

「PFAS国内外規制」セミナー

No.407115 7/31

・申込書に必要事項をご記入の上、FAX(03-5436-5080)にてお申込みください。

・ホームページからも申込できます。https://www.gijutu.co.jp/

会社名	事業所・事業部		
住所	〒		
TEL	FAX		
	所属部課	氏名(フリガナ)	E-mail
受講者1			
受講者2			
今後ご希望しない案内方法に×印をしてください(現在案内が届いている方も再度ご指示ください) [郵送(宅配便)・FAX・e-mail]			
個人情報の利用目的			
・セミナーの受付、事務処理、アフターサービスのため		・今後の新商品、新サービスに関するご案内のため	
・セミナー開催、運営のため講師へもお知らせいたします			



TECHNICAL INFORMATION INSTITUTE CO.,LTD.

申込専用FAX 03-5436-5080

- 3. 申込み人数が開催人数に満たない場合等、状況により中止させて頂く場合がございます。
- 4. 定員になり次第、申込みは締切となります